

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

腰痛には諦めきれぬ自転車をもた漕ぎてみる  
 脇目もふらず 阿部はぎの  
 蓋に穴の日の丸弁当に腹満たしてこぼ道  
 われら歩み来つ 後藤今朝雄  
 笑顔にてみなが新米の膳につく炊きたての香  
 は茶の間を満たし 佐藤 啓子  
 枝豆のさやのふくらみ気にかかり今日も葉を  
 分け確かめてみる 阿部みさ子  
 後にして気付く打ち身の黒きあざ感覚鈍き齢  
 とはなる 遠藤 行夫  
 児童らとたのしく遊ぶ敬老会ひよつとして  
 う少し生きられるかも 山田 濱  
 カラコロ下駄の音させ夢のなか落ち込む我  
 を亡母が見舞ふ 寺崎 悦子  
 戦中を生き来しわれは品物を捨つる決断な  
 なかつかぬ 八嶋 正子  
 漸くに体調戻るうれしよ庭に出れば秋の  
 気うまし 高子たちばあ  
 眼の下に眺むるお釜は青々と水をたたへて吾  
 を慰む 平間 久子

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

人生は百才時代敬老日 岩澤 伍峯  
 七いろの風に染まりし秋さくら 高子たちばあ  
 萩見客ぐるつと二の丸三の丸 服部 忠孝  
 まつすぐに陽を導ける障子貼る 遠藤 忠臣

# 風間市長の風のそよぎ

## 「極月」



▲10月2日、鬼小十郎まつりは多くの観光客でにぎわいました

風間市長は、12月の異称であり、師走のことを指します。「ごくつき」とも読むそうです。今年、庚寅年も残すところ1カ月となりました。皆さまにとってどんな1年だったでしょうか？ 私にとってば、例年同様、虎のように走り回った1年でした。今年の夏は、異常気象により猛暑日が続き、汗かきの私としては、例年になく多量の汗をかきました。「少し体が絞られたかな？」と思いましたが変化なし。汗をかいた以上に供給していったようです。

しかし、10月に受けた人間ドックの結果は良好！ 健康状態に何も異常がないとお墨付きをいただきました。今年、本市に多数の観光客が来白した年でもありました。さまざまなまつりやイベントに加え、戦国



▲10月22日、ブックスタート事業で親子に絵本を手渡す風間市長

そればかりか、心に残る忘れてはならないうれしい思い出になりました。やまぶき亭の心温まる対応に加え、タクシードライバリの優しい心遣いに感動しました。「やさしい心遣い」と言われるかも知れませんが、旅行者の1人としては大きな感動になるのです。言葉も出ない重度の障害を持った息子ですが、親以上の喜びを感じたと思えます。長時間車いすに座っている息子の笑顔を見て、『良かった

ネ！ 助かったネ！』と何度も言いながら帰宅しました。白石市の皆さん、ありがとう！！ 最後に書かれた「白石市の皆さん、ありがとう！！」のフレーズは、本当にうれしい限りです。これは、市民一人一人が汗をかき、学び、白石を生かした成果です。歴史や文化とともに、人々の優しさや心の温かさが認められた結果です。これからも、市民の皆さまと行政が一丸となり、みんなに愛される「ふるさと白石」を、「競争」ではなく「共創」して参りましょう。その原動力はあなたです。年の瀬に当たり、市民の皆さまが御身御自愛の上、良きお年を迎えられますことを心よりご祈念申し上げます。来年は今年よりさらに良い年といたしましょう。

## 柳壇

四電 英夫 選

秋寒し乳呑み児深く抱かれをり  
 秋雨や昨日も降りて今朝もまた  
 檻熊の眼に泪ため秋の風 福原 峯子  
 敬老の日あり楽しむケアハウス 斎藤 典子  
 慕道を色鮮やかに曼珠沙華 跡部 祐子  
 刈り終えぬ稲に冷たい雨当たり 阿部はぎの  
 佐藤 啓子

「評」一句目、「同じ轍を二度踏むな」の教えの通り、今日の失敗を明日の成功につなげたもの。止まない雨もなければ、明けない夜もない。  
 二句目、過疎化、少子化、高齢化。耕作放棄の土地は増え、その一方で食輸入。今の農業を愛う心情が伝わる。起死回生の一打はあるのか。  
 三句目、安売り競争の時代。ビックリするような物もある。品質など不安もあるが、背に腹はかえられぬ」ということか。

# —思いやりのある良質で信頼される医療を目指して— 公立刈田総合病院新任医師紹介



公立刈田総合病院 ☎25-2145

## 健診センター長 洞口 正之

10月1日付けで、健診センターに赴任した洞口正之です。東北大学放射線科故星野文彦教授の最後の弟子で、当院の田澤聡放射線部長とは同門です。東北大を辞してから健診関係の仕事に従事していたところ、高林院長の誘いを受け奉職することになりました。



「洞口」の姓は、本来「ほらぐち」と読みますが、祖父が釜石の「洞口家」を継いだ際、役場に「づぐち」と届け出たようで、それ以来約80年間、わが家だけ「づぐち」と名乗っています。宮城県の名家である「ほらぐち家」とは、直接のつながりはなさそうですので、お間違いのないようお願いいたします。実は刈田病院には大きな借りが2つあります。義父をみとっていただいた恩と、息子が研修医としてご指導いただいた恩です。その恩返しになるよう、微力ながら前職の経験を生かし、皆さまのお役に立つべく頑張りますのでよろしくお願い致します。

## 外科 科長 阿部 立也

10月1日付けで、外科に赴任した阿部立也です。私の専門分野は血管外科で、腹部大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症といった、近年、増加傾向にある動脈疾患や下肢静脈瘤などの静脈疾患を、佐藤博子先生とともに診療を担当していきます。



血管外科といっても、先に挙げた疾患の患者さんが外科的治療を第一選択とするわけではなく、内科的治療を含め病態に応じた、適切な治療法の選択が望めます。血管疾患は喫煙などの生活習慣の改善や高血圧、高脂血症、糖尿病といった全身に影響を及ぼす内科的疾患の治療も大切になりますので、地域の先生方との連携を図りながら診療に当たりたいと思います。また、胃癌、大腸癌などを含めた消化器疾患の外科治療についても、これまでの経験を生かし、幅広く診療に携わっていきたく考えていますのでよろしくお願い致します。

# まちの話題 ~あの日、あの時~

## 実りの秋を実感！ 大平小の児童が稲刈り体験

10月18日、大平小(立田基生校長)の5年生が総合学習として育てていた稲が実りの時期を迎え、地元の方と協力しながら、5・6年生37人が手作業で稲刈りを体験しました。同小では総合学習の時間を活用し、11月の「大平まつり」に向けて、もち米づくりを10年以上前から行っています。5月に植えたもち米「みやこがね」の苗は、太陽の日差しを存分に浴びて約1ヵ月まで成長。田んぼを提供している角田和雄さんから刈り取り方法の説明を受けた後、子どもたちは一人ずつ鎌を持ち、5年生は昨年体験した6年生に教えてもらいながら、黄金色に染まった稲を刈り取っていました。「子どもたちが白石に残り農家の担い手になってくれたらという思いもありますが、一緒に作業することが楽

しいです」と角田さん。子どもたちは「大変だけど、自分たちで作った米をもちにして食べるのが楽しみです」と笑顔で話してくれました。



▲秋晴れの下、元気に稲刈り！